

初夏の初鯉, 秋といえば秋刀魚, 冬の寒鰯といったように, 本土で一般的に食べられている魚には旬がありますが, 一年を通して温暖な沖縄の海に生息する魚にも旬はあるのでしょうか?

魚の一年 ~くちなぎを例に~

くちなぎは, 沖縄県内でも八重山で特に多く漁獲されており, 八重山を代表する魚と言えます. 水産海洋技術センターでは, これまでにくちなぎの様々な生態を調査してきました. くちなぎは, 春から初夏にかけて少し深みのある水路部で群れを作って産卵します. 産卵が終わると, 秋ごろから餌をたくさん食べるようになりますが, 冬になると水温の低下に伴って餌食いも悪くなります. 2月頃から, 雌はお腹の卵が発達し始め, 産卵に向けた準備が始まります.



漁協に水揚げされたくちなぎ

春から初夏にたくさん釣れますが...

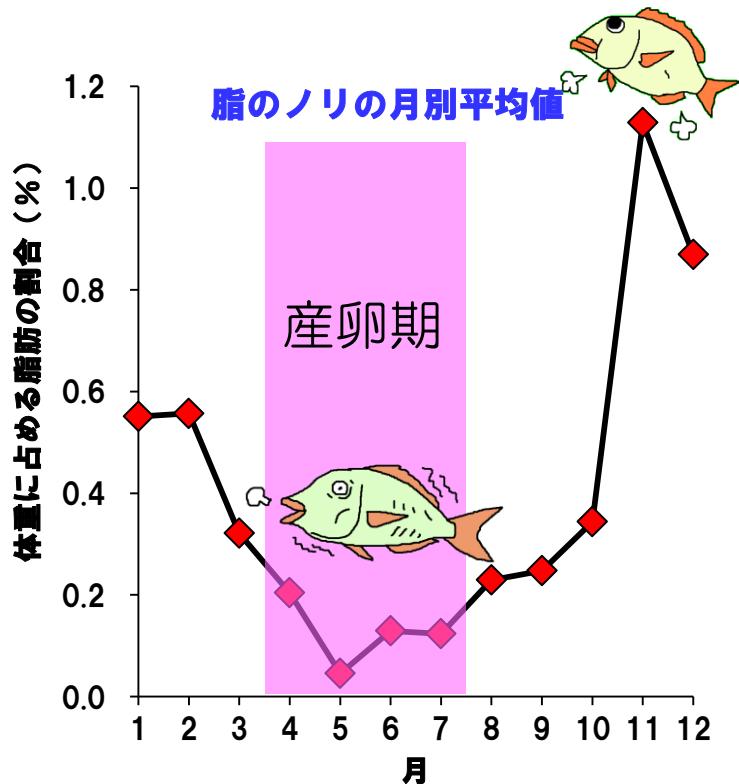
八重山では昔から, 「デイゴが咲くころにくちなぎが大漁する」と言われていたようです. デイゴが咲く4月は, くちなぎの産卵期にあたり, 海人以外も多くの人がくちなぎをたくさん釣って, 隣近所にも配って回るほどだったようです. 15年ほど前に実施した一般の釣り人を対象としたアンケートでは, 遊漁だけで年間約17トンもくちなぎを釣っていた, という推定結果もあります. このように, くちなぎは八重山の人々にとって自分でも釣ることのできる身近な魚なのですが, **最も脂のノリが悪い産卵の時期にたくさん獲る**, という大変もったいないことをしてきました.



産卵期に「大漁」したくちなぎ

脂のノリ!

右のグラフは, くちなぎの体重に占めるお腹の中に付く脂肪の割合, いわゆる体脂肪率の月別変化を示しています. これを見れば, 冬に脂がのり, **産卵期の4~6月は脂がほとんどない**ことが分かります. つまり, くちなぎの旬は冬と言えそうです. このような変化は, 産卵や餌の食べ具合と関係していると考えられます.



保護区にご協力ください!

「産卵で身質が悪くなる時期にたくさん獲られている」という魚はクちなぎ以外にもたくさんいます. そこで八重山の漁業者は, 4~6月の間, いろいろな魚が産卵場所として集まる場所を保護区に指定し, 不合理な漁獲を避ける取り組みを実施しています(下の図). これらの保護区にかぎらず, **産卵期の数釣りは卵を産む親魚を減らしてしまう行為に他ならない**わけですから, 海人以外も魚釣りを楽しむすべての皆さんの協力が不可欠です. 魚釣りは自分で食べきれ的分だけ持ち帰るなど節度を持ち, 豊かな八重山の海を残していきましょう.



航空写真: 環境省国際サンゴ礁研究・モニタリングセンター

